



夢をかなえるノート

市内の中学生が様々な職場取材してまとめた「夢をかなえるノート」。第2弾まで発行し、冊子製作に参加してくれた中学生から「将来は地元で仕事をしたい」「須賀川で夢をかなえたい」といった声が集まりました。



須賀川事典(三部作)

今まで見過ごしていた街の歴史や、気付いていなかった豊かな営みなど、すかがわの魅力を拾い集めた「事典」。観光などで本市に訪れた皆さんからも好評を得ています。



YouTubeを活用し、須賀川の魅力を発信してきました

をかなえるノート」を製作し、市内の小・中・義務教育学校、高校に配布することで、地元への誇りや愛着の増進を図ってきました。また、テレビでの特別番組の放送や、YouTubeでの動画配信、SNSなどを活用した広告掲載、すかがわ魅力創出補助金など、様々な方法で市内外に魅力を発信してきました。

これらの成果が移住者数の増加など、目に見える形で現れるまでには時間が必要ですが、シティプロモーションに対する反響や、事業を進める際に関わった多くの皆さんの声から、着実な手応えを感じています。

市民の皆さんと共に

持続可能なまちづくりを、より力強く進めるためには、行政だけでなく、市民の皆さんや、本市に関わる皆さんと共に、シティプロモーションを推進することが重要です。そのため、自分の友人や知人など身近な人に本市の魅力を伝えたり、SNSなどで情報を発信したりするなど、皆さんのできる範囲での協力をお願いいたします。

これからも私たちのまちを守り、より元気にするために、共に「すかがわの魅力」を発信していきましょう。

企画政策課(88)9131



市民団体や民間事業者などが行う情報発信をすかがわ魅力創出補助金で支援



シティプロモーション活動

好きです わたしのすかがわ

市では、令和2年度から市内外に地域の魅力を広め、イメージの向上や移住・定住・来訪などにつながる「シティプロモーション」に集中して取り組んできました。これまでの取り組みを紹介します。

進む人口減少の中 未来を守るために

令和6年4月に、全国の市区町村のうち4割超に当たる744自治体が2020年から2050年までの30年間で「消滅する可能性がある」との報告が、民間の有識者で作られる「人口戦略会議」から発表され、大きな話題となりました。

本市は、この「消滅可能性自治体」には含まれていませんが、2005年をピークに人口減少が続いており、その傾向は今後も続く予想されています(下の図のとおり)。

若い世代の人口が減少する一方で、総人口に占める高齢者の割合は増加しており、地域活力などへの影響が懸念されます。

自治体間競争と シティプロモーション

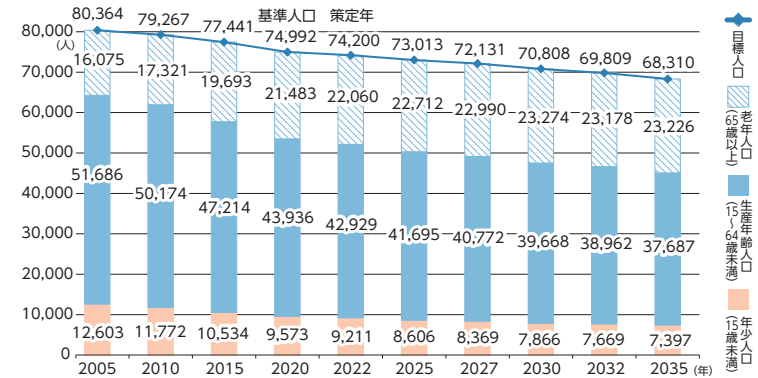
全国的にも人口減少が進む中、定住先として選ばれたいことを目標とした、自治体間競争が激化しています。

本市でも、持続可能なまちづくりを実現するため、地域の魅力を市内外に発信して「ヒト・モノ・カネ」を呼び込むことで地域活性化を図る「シティプロモーション」を推進してきました。

まちだけでなく 自分自身も好きになる

本市のシティプロモーションのキャッチフレーズである「好きです わたしのすかがわ」には、まちを思う心だけでなく、本市に関わる一人ひとりが、自分自身を好きになりたいという願いが込められています。このキャッチフレーズの下「まちへの愛着や誇りの醸成」「認知度の向上」「定住・関係人口の増加」を目標に、情報を発信してきました。

●本市の年齢3区分別の人口推計



シティプロモーションの歩み

シティプロモーションの取り組みは、本市出身の偉人である円谷英二監督と円谷幸吉選手を顕彰する「二人の円谷」顕彰事業を皮切りに、本格的にスタートしました。

本市の魅力を集めた「須賀川事典」や、中学生をメインターゲットにした冊子「夢